



第3回 学校運営協議会だより

令和5年11月9日
横浜市立山王台小学校
校長 遠藤 清美

11月2日(木)に、今年度、第3回目の「学校運営協議会」が行われました。その際にいただいた意見などを紹介させていただきます。

1 令和5年度 学校運営協議会委員



2 第3回 学校運営協議会の主な内容（いただいたご意見の一部です。）

（1）運動会アンケート結果について

- ・全体的に高評価だった。
- ・「午前中開催で助かる。」という意見が多かった。
- ・徒競走は子どもの順位はわからないが、すぐに自分の席に戻る形式にし、時間短縮につながった。
- ・徒競走において、アナウンスを行ったこと、子どもが提示する形にしたことは好評だった。
- ・過去に行っていた運動会の形を、今の子どもたちにも知って欲しい。
- ・家族や祖父母とお昼を食べて、行う運動会もよさがある。
- ・午前だけの運動会、1日行う運動会、どちらもよさがある。
- ・昔の形式に戻す必要はなくなってきているが、体験もして欲しい思いもある。
- ・親子で楽しむ運動会は小学校までなので、それも大切にできるよう調整できたらよい。
- ・保護者、地域が参加する競技がなくなったので寂しい思いがある。

- ・子どもたちの振り返りは行ってないのか。
→ キャリアパスポートで振り返りを行っている。
- ・子どもの生の声を聞くことが重要。子どもたちがどのようにとらえているのか。
- ・保護者と同じ項目でもよいので、教職員と合わせてアンケートを取ると振り返りになる。
- ・子ども同士のつながりを、練習の中、競技の中で、どのように作っていくかが大切である。

(2) 学校と地域の、主に学習に関するつながりについて

各学年の学習において、地域の協力はどの場面で必要かを協議しました。

ア 低学年より

- ・生活科を中心に関わって欲しい。給食のお手伝い、清掃の仕方でのアドバイスをいただいたり、下校指導で横断歩道に立っていただいたりすると助かる。
- ・まちたんけんに関わっていただき、子どもたちに山王台のまちを理解して欲しい。
- ・算数の長さの単位など、鉛筆で線を引く部分に補助に入ってもらくなど、些細な援助で子どもたちは安心できる。
- ・生活科で必要な材料などを、一緒に配っていただくだけでも子どもは安心する。

【委員より】

- ・地域の方の登録のシステムがなかったので、Google フォーム等を利用して、どこで何が必要かを収集し、学校へお手伝いに行けるような形を作っていきたい。
- ・おじいちゃん、おばあちゃんは小さい子と話をしたいが、やはり壁がある。ただ子どもたちと楽しく話したい。先生方のアドバイスがあればお聞きしたい。
- ・子どもたちにただ声をかけると変なおじさんに見られてしまう不安がある。
- ・挨拶をしても子どもから避けられてしまうこともある。
- ・挨拶をして子どもが近づいてきたら、近寄られてもよいものか、逆にこちらが不安になることもある。安心して関わるためにはどうすればよいか。
- ・学校の中で関わる場面を作れば、お互いに安心して接することができる。

イ 中学年より

- ・国語の俳句学習において、ご助言いただける方がいれば、子どもの興味・関心が更に増すと思う。
- ・コンピュータのローマ字入力にご協力いただけたら助かる。
- ・社会科において、まちのようすをより詳しく教えていただきたい。
- ・洗濯板、七輪の経験をさせたい。
- ・地域の方による大人の手が入れば、まちたんけんなど、より安全に行える。
- ・ヒルトップから地域に発信すれば、学校と地域が深くつながり、子どもたちの学習活動がより発展する。
- ・彫刻刀の使用において、一緒に指導していただけるとありがたい。ノコギリの使用などでも同様である。
- ・算数のそろばん学習において入っていただけたら助かる。

【委員より】

- ・学習支援ボランティアシートにどんどん書き込んでいただければ、登録者が増え、しっかり協力できる体制が出来上がる。
- ・防空壕などもあるので、地域の方の知識を集めれば多くの学習ができる。
- ・ヒルトップの方に協力していただき、地域ともっと繋がっていくとよい。

ウ 高学年、個別より

- ・家庭科の学習において、ミシンボランティアでとても助かっている。
- ・社会の産業、工業などの学習においても、携わっている方がいらっしゃれば、直接お話を伺いたい。
- ・いろいろな学習の中で地域の方へ発信できる場を設けていきたい。
- ・学援隊の方から笑顔で挨拶をしていただいているので、子どもたちも笑顔になっている。
- ・田んぼや畑のアドバイスをしていただけたら助かる。

【委員より】

- ・地域の人材が意見を出していき、教員の目線と合わせることで、より学校と地域とのつながりが出来上がっていく。
- ・「まち」にある地域の方が運営するサロンとの連携もよい。いろいろな可能性が膨らんでくる。
- ・各学年の年間指導計画で援助できる部分には限りがある。それぞれの単元づくりをしっかりと行い、本当に援助が必要な部分はどこか、学校でしっかり計画を立てていく必要がある。
- ・学校からお話をいただき、地域としてもどのような援助ができるか光が見えてきました。

その他、様々なご意見をいただきました。学校と地域との連携をより深めることで、様々な体験や経験の場が増え、子どもたちは「コミュニケーション能力の向上につながる」「地域への理解・関心が深まる。」学校は「教員が授業や児童指導などにより力を注ぐことができる。」地域は「地域の活性化につながる。」「生きがいづくりや自己実現につながる。」などの様々な効果があると考えられます。

子どもたちが自分で考え、行動できる大人に成長するように、学校や家庭、地域で子どもの学びの場を意図的に組み立てることが大切だと思われます。

これからも、三者それぞれの役割を果たしながら子どもたちと関わり、成長を見守っていただけるようご協力をよろしくお願いいたします。

